



国際医療協力室のロゴマーク

● 活動目的

『外国人にやさしい病院』を目指して

- 1) 当院では 2005 年 4 月に国際医療協力室が発足した。(臼井外科医長)
- 2) その間、医療通訳をはじめとする外国人診療体制の整備をいろいろと行なってきた。
- 3) 2006 年から 6 年間は厚生労働省国際医療研究を行なった(3 研究)。
 1. (18 指1)ネットワーク機関における外国人診療のあり方に関する研究
 2. (18 公6)胎児から乳幼児に子育てを軸とした継続ケアの構築
 3. (21 指9)海外渡航者及び帰国者のための効果的な診療体制整備に関する研究－(分担) 在日外国人・日本への外国人渡航者の診療体制の構築
- 4) それらをもとにして、2012 年外国人診療の10箇条をまとめた。外国人診療に対する基本的な姿勢を述べている。2013 年改訂。
- 5) 当院でできる海外医療協力を推進している。

● 活動状況

- 1) 海外医療協力
NPO 中国四国小児外科医療支援機構(本部:岡山医療センター)による活動
ミャンマー等手術ミッション 年に1~2回で平成 23 年 1 月より継続している
当院の医師、看護師が毎回参加している
海外医療機関からの見学・研修の調整・世話など
外国人医師臨床修練指導医(中村)
- 2) 当院の外国人診療システム充実のための活動
- 3) 外国人診療の手助け、助言
診療に必要な書類掲示物の英訳・助言など適宜行っている。

岡山医療センターの外国人診療

- 患者の家族・知人による通訳
上記がない時は地域連携室・国際医療協力室に連絡
- 多言語医学情報ツールの活用
16カ国対応診療補助表など
- 医療通訳の確保
英語は院内
その他の言語は院外から
岡山国際交流センター 中国語・ポルトガル語など



カンボジア国研修にて

1. 国際医療研究センター(国際医療協力局・香川大学)医療技術等国際展開推進事業によるミャンマーにおける核黄疸撲滅プロジェクト、ヤンゴン派遣(中村)。
 2. カンボジア国「分娩時及び新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」
Project for Improving Continuum of Care with focus on Intra partum and Neonatal Care in Cambodia
の国別研修でカンボジアの周産期医療に携わる医師・看護師の研修受け入れ。
 3. その他 当院職員の英語力アップの試み
医学英語検定 2 級・3 級・4 級に合格者輩出 今までに 10 名以上
- 外国人診療の手助けに、16か国語診療補助表というのが、以前より、救急外来、地域連携室に用意しています。2016年10月に、COMEDIXの国際医療協力室のところにアップしました。該当の国の部分をコピーしてお使いください。
 - 日本語のわからない外国人への対応図です。

日本語のわからない外国人への対応

外国人来院

医事科



通訳が必要な外国人



16か国語診療補助表・機械翻訳などの活用。

CoMedixの委員会・WG一覧の国際医療協力室にある。

(必要な外国語をコピーする)

医事用、担当科医師用、患者用で1セット。

それでも通訳が必要な場合は下記に電話



国際医療協力室

室長 中村 信((8844) 副室長 秋山一郎(8512)

医事専門職、佐藤将光(8303)



英語:小川愛子(8125)

ドイツ語:市川孝治(8589)

その他の言語は、すぐには無理です。

(2020年3月 国際医療協力室)